

1.  $S^2 := \{u \in \mathbb{R}^3 \mid |u| = 1\}$  の向きが,  $n: S^2 \rightarrow \mathbb{R}^3, n(p) = p$  で与えられているとする.  $V_z^+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > 0\}$  上の点  $p$  のまわりの局所座標として,  $\varphi: D^\circ \rightarrow V_z^+, \varphi(s, t) := (s, t, \sqrt{1-s^2-t^2})$  を考える. ただし  $D^\circ := \{(s, t) \in \mathbb{R}^2 \mid s^2 + t^2 < 1\}$  とする.
- (1)  $\partial_s \varphi := \frac{\partial \varphi}{\partial s}$  などと略記する.  $\hat{n} := \partial_s \varphi \times \partial_t \varphi$  を計算し,  $\varphi$  は向きを保つ局所座標であることを示せ. つまり, 任意の  $a \in D^\circ$  に対し  $p = \varphi(a)$  とおくと,  $\hat{n}(a) = kn(p)$  となる  $k > 0$  が存在することを示せ.
  - (2)  $\mathbb{R}^3$  上のベクトル場  $V(x, y, z) := (x, y, z)$  に対し,  $V(\varphi(s, t))$  を求めよ.
  - (3)  $V(\varphi(s, t)) \cdot \hat{n}(s, t)$  を求めよ.
  - (4)  $\varphi(D^\circ) = V_z^+$  であることを示せ.
  - (5)  $\int_{V_z^+} V \cdot dS := \int_{D^\circ} V(\varphi(s, t)) \cdot \hat{n}(s, t) ds dt$  を計算せよ.
  - (6)  $\varphi': D^\circ \rightarrow V_z^+$  を,  $\varphi'(s, t) := (t, s, \sqrt{1-s^2-t^2})$  で定義する.  $\varphi'$  は向きを保つ局所座標ではないことを示せ.
  - (7)  $\hat{n}' := \partial_s \varphi' \times \partial_t \varphi'$  とおく.  $\int_{D^\circ} V(\varphi'(s, t)) \cdot \hat{n}'(s, t) ds dt$  を計算し (4) と比較せよ (問題 5 も参照).

2.  $S^2$  の向き  $n: S^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$  は問題 1 と同じとする.  $V_+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > -1\}$  とおき, 各  $p \in V_+$  のまわりの局所座標  $\psi: \mathbb{R}^2 \rightarrow V_+$  として  $\psi(s, t) := \frac{(2s, 2t, 1-s^2-t^2)}{1+s^2+t^2}$  を考える (演習 8 (6/10) の立体射影).
- (1)  $\psi$  は向きを保つ局所座標であることを示せ.
  - (2) ベクトル場  $V(x, y, z) := (x, y, z)$  に対し,  $\int_{V_+} V \cdot dS$  を計算せよ.
  - (3)  $\psi(D^\circ)$  は問題 1 の  $V_z^+$  に一致することを示せ.  $\psi: D^\circ \rightarrow V_+$  を使って  $\int_{V_+} V \cdot dS$  を計算し, 1. (5) と比較せよ.
3.  $C^\infty$  級関数  $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$  をスカラー場とも呼ぶ. 向きづけられた曲面  $S$  に対し,  $p \in S$  のまわりの向きを保つ局所座標  $\varphi: U \rightarrow S$  を取って, スカラー場  $f$  の  $A := \varphi(U)$  に沿った面積分を次のように定義する:

$$\int_A f dS := \int_U f(\varphi(s, t)) |\hat{n}(s, t)| ds dt.$$

- (1)  $\int_A f dS$  は向きを保つ局所座標  $\varphi$  の取り方によらないことを示せ.
  - (2) 定数関数 1 に対し,  $\int_A 1 dS$  を  $A$  の面積と呼ぶ. 問題 2 の  $\psi: \mathbb{R}^2 \rightarrow V_+$  に対し,  $\int_{V_+} 1 dS$  を計算せよ.
4.  $S^2$  の局所座標として, 演習 8 (6/10) 問題 2 の局所座標  $\varphi: U \rightarrow V$  を取る. 問題 1 の  $V$  に対し  $\int_V V \cdot dS$  を計算せよ. また  $V$  の面積 (問題 3 参照) を求めよ.
5.  $(S, n)$  を向き付けられた曲面とする.  $p \in S$  のまわりの局所座標  $\varphi: U \rightarrow S$  と  $\varphi': U' \rightarrow S$  で,  $\varphi$  は向きを保ち,  $\varphi'$  は向きを保たず,  $\varphi(U) = \varphi'(U') \subset S$  をみたまものをとる. このとき  $\mathbb{R}^3$  のベクトル場  $V$  に対し次を示せ:

$$\int_U V(\varphi(s, t)) \cdot \hat{n}(s, t) ds dt = - \int_{U'} V(\varphi'(s, t)) \cdot \hat{n}'(s, t) ds dt$$

6. トーラス  $S$  の局所座標として, 演習 10 (6/24) 問題 3 の  $\varphi: (0, 2\pi) \times (0, 2\pi) \rightarrow \mathbb{R}^3$  を取る.
- (1)  $S$  の向き  $n: S \rightarrow \mathbb{R}^3$  を,  $n$  が  $S$  で囲まれる有界領域から非有界領域に向かうよう定義する.  $\varphi$  は向きを保つ局所座標か? (ヒント: 例えば  $\varphi(\pi, \pi)$  における  $n$  の向きを見れば十分)
  - (2)  $V(x, y, z) := (y, -x, z)$  に対し,  $\int_{\varphi(U)} V \cdot dS$  を計算せよ.
  - (3)  $\varphi(U)$  の面積 (問題 3 参照) を計算せよ.
7. 一般に,  $u, v \in \mathbb{R}^3$  と  $a, b, c, d \in \mathbb{R}$  に対し,  $(au + bv) \times (cu + dv) = (ad - bc)u \times v$  であることを示せ. これを使って補題 76 の証明を完成させよ.

(提出の必要はありません)

補足：局所座標が向きを保つか否かの判定について．

$(S, n)$  を向きづけられた曲面とし， $\varphi: U \rightarrow S$  を  $p \in S$  のまわりの局所座標とします．任意の  $a \in U$  に対し

$$\hat{n}(a) = kn(\varphi(a)) \quad (\in T_{\varphi(a)}^\perp S) \quad (*)$$

(ただし  $\hat{n} := \partial_1 \varphi \times \partial_2 \varphi: U \rightarrow \mathbb{R}^3$ ) となる  $k \neq 0$  が存在します (その値は一般に  $a$  によって変化するので，本当は  $k = k(a)$  と書くべき)．任意の  $a \in U$  に対し  $k > 0$  であるとき， $\varphi$  は向きを保つ局所座標である，といたしました． $\hat{n}$  を「 $\varphi$  が決める  $\varphi(U)$  上の向き」と呼ぶことにすると，元々与えられた向き  $n$  と， $\varphi$  が決める  $\varphi(U)$  上の向きが一致するとき， $\varphi$  は向きを保つ，というわけです．

$\varphi$  が向きを保つか否かは，任意の  $a \in U$  について，(\*) をみたま  $k$  が正であることを示す必要があります．しかし実際には次のことが言えます：

補題．ある一つの  $a \in U$  について (\*) をみたま  $k$  が正なら， $\varphi$  は向きを保つ局所座標である．

証明． $\hat{n} := \begin{pmatrix} \hat{n}_1 \\ \hat{n}_2 \\ \hat{n}_3 \end{pmatrix}$ ， $n \circ \varphi := \begin{pmatrix} n_1 \\ n_2 \\ n_3 \end{pmatrix}$  とおくと， $\hat{n}_i$  や  $n_j$  ( $i, j = 1, 2, 3$ ) はいずれも二変数の連続関数です．任意の  $a \in U$  に対し

$n(\varphi(a)) \neq \mathbf{0}$  ですから，少なくとも一つの  $i \in \{1, 2, 3\}$  に対し， $a$  の近くで  $n_i \neq 0$  です．この  $i$  について， $a$  の近くで  $k = \frac{\hat{n}_i}{n_i}$  が成り立つので， $k$  は任意の  $a$  の近くで (従って  $U$  全体で) 連続です．しかも  $k \neq 0$  ですから， $k$  の符号は  $U$  上で一定です (連続関数が符号を変える瞬間には必ず 0 を通る)．よって，ある一つの  $a \in U$  に対し  $k(a) > 0$  なら， $U$  全体で  $k > 0$  です． □

$k(a)$  の正負を調べるとき， $a$  はどれでもよいわけですが，計算しやすいものを選ぶとよいと思います．例えば 7/1 の問 1. (1) の場合， $a = (s, t) = \mathbf{0}$  において  $\hat{n}(a)$  と  $n(\varphi(a))$  を比べると簡単です．

幾何入門レポート問題 11 (2016年7月1日)

担当：境 圭一

7/1 の問題 1 の状況で,  $W(x, y, z) := (y, -x, z)$  に対し,  $\int_{V_z^+} W \cdot dS$  を計算せよ.

(7/8 の 3 限開始時まで提出してください)

[http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/16\\_geometry/16\\_geometry.html](http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/16_geometry/16_geometry.html)